

伝えたい、伝統芸能の心

高森町伝統芸能連絡協議会会長 本田 研一

やがてそれは、二十数年も前の出来事です。

二〇〇八年に上映された、宮崎康平氏原作、吉永小百合・竹中直人他出演の「まぼろしの邪馬台国」。その宮崎康平氏がお亡くなり、先生を偲んだ追悼番組の制作がありました。

上色見大村古墳を再発掘しようという約束したのは、その時でした。

主催者の放送局は、発掘調査済みの古墳を再発掘することによって、それを主題とした番組制作をはかり、出演者であるさだまさし氏にテーマ曲制作の依頼もありました。

大村地区の方々に協力をあおぎ、発掘調査を予定。さだまさし氏として関係者の方々も早朝よりお集まりいただきました。

しかし当日、もう一人の出演者で

ある服部克久氏の乗られた飛行機が、熊本空港霧のため着陸できず、福岡空港に向かいました。そのために三時間は遅れるとの連絡が入りました。

それは二月、調査日の天候は快晴でしたが、とっても寒い一日でした。発掘をお願いしている人達には、再発掘現場から少し離れた場所を、寒さしのぎと時間つぶしの意図から掘られていた最中に、新たな箱式石棺発見に至りました。

さだまさし氏も放送局の方々も当時私の家にて服部先生の到着を待っている頃、土地所有者の牛嶋春男さんから新しい石棺発見の一報を受けました。

「まだ開けていない。」その一言にどよめきました。それは著名な考古学者でも、なかなか立ち会うことが出来ないその瞬間に興奮しました。

現場へ向かう途中で、服部先生もお着きになりました。もうすでに多くの方々がお集まりであり、その人達の間から覗き込むと、大半は泥に埋もれたふたの部分が見えます。地表より約1m下、横たわる石棺には真っ赤な色をしたベンガラが付着が見えます。

まじかに迫る南外輪から運んだ石板で作られたその石棺には、誰がいつ頃と、頭をよぎりました。

手配した僧侶も教育委員会関係者もお着きになり、ふた部分の泥を取り除き読経がはじまりました。石棺発見した場所の位置関係を紹介しましょう。

南側外輪のふもと上色見大村。白川の最上流上色見川の右手高台にあり、正面に根子岳・阿蘇山が横たわるように見えます。

野尻・草部を結んだ古代道のすぐ脇に位置し、昭和30年代初頭までは人々の往来がありました。高森町中で開催されていた牛馬市には欠かせぬ通りでした。

その脇を地図上では上色見川、地区の呼び名では「しよい川」が流れています。「おしおいさん」と言って、祭り事には欠かせぬ神宿る場所として、大切にされてきました。漢字で書けば「塩井川」と表記します。

その「しよい川」の湧き出し口を過ぎ登りつめると、進行方向左方土手に、赤土層の中間地点に黒色した灰が見えてきます。周辺には火山岩が散らばっており、小規模火口があったことをうかがい知ります。その黒色灰を鋭い刃物等で、えぐる様に掘ると、数万年は経ていると思われる、狭い年輪を重ねた、その火口噴火による炭化樹木が現れます。

(来月へ続く)

連載再開

平成16年6月～平成18年5月の間、連載しておりましたコラムを再開します。



▶上色見大村地区